

紀と同時代のものに万葉集があります。万葉集には律令国家「日本」へ移ってゆく過程の大宮人の生態をしめす相聞歌、挽歌そして宮廷讃歌がたくさんあります。いっぽう、万葉集には当時の生活に根を張った歌が多いことも特色です。私は食（あるいは食の素材といった方がよいかもしれませんが）を折りこんだ歌の中から万葉時代の食を考えることが出来るのではないかと、『万葉集にみる食の文化』⁸⁾『万葉集にみる酒の文化』¹⁸⁾を最近出版しました。併せてごらんいただければ、本稿で述べきれなかったことにふれることができると思います。

〈参考文献〉

- 1) 矢野憲一『伊勢神宮の衣食住』東京書籍（1992）
- 2) 阪倉篤義校訂『竹取物語』、岩波文庫、26刷（1989）
- 3) 倉野憲司校注『古事記』、岩波文庫、40刷（1989）
- 4) 坂本太郎他校注『日本書紀上』、岩波書店（1993）
- 5) 岡田英弘『倭国』中央公論社（1977）
- 6) 佐佐木信綱編『新訂新訓 万葉集』上巻 岩波文庫、69刷（1987）
- 7) 佐佐木信綱編『新訂新訓 万葉集』下巻 岩波文庫、63刷（1987）
- 8) 一島英治『万葉集にみる食の文化』 裳華房（1993）
- 9) 紀貫之、鈴木知太郎校注『土佐日記』、岩波文庫、13刷（1989）
- 10) 吉田 元『日本の食と酒』、人文書院（1991）
- 11) 宮崎安貞『農業全書』岩波文庫、8刷（1988）
- 12) 佐瀬与次右衛門、会津歌農書、『日本農書全集』第20巻、農山漁村文化協会、4刷（1994）
- 13) 十返舎一九、麻生磯次校注『東海道中膝栗毛』（上）岩波文庫、22刷（1991）
- 14) 古市貞次校注『方丈記』岩波文庫（1989）
- 15) 丸山一彦校注『一茶俳句集』岩波文庫（1990）
- 16) 河上行蔵『つれづれ日本食物史、第二巻』東京美術（1992）
- 17) 朽尾 武校注『玉造小町子壮衰書』岩波文庫（1994）
- 18) 一島英治『万葉集にみる酒の文化』 裳華房（1993）

かごしま遊楽館 OPEN!!

平成7年5月30日、東京の下真ん中に「かごしま遊楽館」がOPENしました。場所は有楽町です。頂戴したパンフレットには「体いっばいに鹿児島を感じて欲しい！ 懐かし・新し・笑顔の鹿児島！」とありました。

この遊楽館は、東京に居ながらにしてありのままの鹿児島を知ってほしいという願いがあるようです。それでは、ほんのちょっと「かごしま遊楽館」をご案内いたしましょう。

1階 鹿児島で穫れた新鮮な素材を使った特産品の販売コーナーその他です。

〈鹿児島旨いもん〉 鹿児島・薩摩料理の最大の魅力は、何と言っても新鮮な山海の幸です。さつまいも製品・さつまあげ……すべて本場の味が遊楽館にあるのです。

2階 鹿児島県黒牛・黒豚など鹿児島の特産品を使い新しく工夫したメニューを楽しめるレ

ストラン。

3階 伝統の温かみがあふれる伝統工芸品などの展示販売コーナーなど。

◎鹿児島遊楽館

東京都千代田区有楽町 1-6-4

TEL 03(3506)9177

FAX 03(3506)9178



■さつまいも製品

■さつまあげ